

命の輝きは人のために生きてこそ

「学んだこと身につけたこと考えたことを他者のために活かす」

広島県立大門高等学校

担当教科：外国語（英語）

香川ゆかり

●実践教科：英語Ⅰ／総合的な学習の時間 ●時間数：11時間／1時間 ●対象学年：高校1年生 ●対象人数：60名及び320名

実践の目的

- ・マラウイの生活実態についての学習を通して、多様な価値に気付く。
- ・世界のあらゆる現象が、私とつながっていることを確認する。
- ・格差社会を解消し、公正に生きるための知恵を出し合う。
- ・相互に様々な意見や考え方を伝え、共有することにより、学ぶことや働くこと、私の使命について考える。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 ▼ 7	マラウイの生活を体験する ーマラウイに興味・関心をもち、基礎知識を得るー （英語Ⅰ：1年生）	・マラウイの主食シマを試食する ・チテンジを試着する ・時間とお金の概念を学ぶ ・マラウイの高校生からのメッセージを読む ・マラウイ情報を様々な角度から学ぶ	・シマ ・チテンジ ・マラウイクワチャ(通貨) ・メッセージカード ・パワーポイント（写真） ・「アフリカ苦悩する大陸」
8	幸福の条件を考える ー自らの生活と比較して分析的に資料を読み取ることにより、豊かさや幸福の本質にせまるー （英語Ⅰ：1年生）	(1)マラウイの少女の目線で書いた「ナジェリの日」を読み、具体的な生活実態を把握する (2)マラウイの生活の良い点と問題点をあげる (3)動画や写真を見て、幸福の条件について考える (4)グループごとに幸福の条件をまとめて発表する	学習指導案 資料1 (1)「ナジェリの日」 資料2 (2)マラウイ木工品 (3)動画と写真 (4)「豊かさとは何か」
9	医療を考える ー医療における課題に対する解決の道筋を導くー （英語Ⅰ：1年生）	(1)医療における課題をあげる (2)看護師原隊員の活動について学ぶ (3)マラウイにおける対策の1つとしてHIV/AIDSサポートグループの活動について学ぶ (4)診断書を読み、格差に気付く (5)具体的な解決策をグループごとにまとめる	(1)(2)写真 (3)AIDS支援カード 動画と写真 (4)診断書（英文）
10	言語文化の継承のために ー言語多様性と言語の継承について考えるー （英語Ⅰ：1年生）	(1)マラウイの言語（チェワ語と英語）の使用状況を学ぶ (2)日本における少数語族（アイヌ語、琉球語）について学ぶ (3)言語多様性の尊重及び言語消滅の影響について書かれた英文を読む (4)言語文化の継承の在り方について考える	(1)写真 チェワ語ノート 動画 (2)アイヌ語と琉球語についての資料6 (3)「平成17年度広島市立大学国際学部推薦入試問題」資料3 「PRO-VISION ENGLISH COURSEⅡ」資料4・6

11	人類の共有財産である水の公平な分配のために 水の使用量を減らすために何ができるかを考える (英語Ⅰ：1年生)	(1)マラウイにおいては水が稀少価値を持つことを学ぶ (2)世界では水をめぐる紛争があることを学ぶ (3)日本に入っている仮想水について学ぶ (4)水を共有財産として大切に使うための具体的行動計画を考える	(1)写真（水使用についての注意書き） (2)「ユニセフT・NET通信」 資料7 (3)「WORLD TREK ENGLISH COURSEⅡ」 資料5
12	あなたの使命を探し出そう 青年海外協力隊員の活動等を通して、就労の在り方について考える (総合：1年生)	(1)マラウイの生活実態を理解する (2)マラウイで活躍する青年海外協力隊員の活動と言葉を理解する (3)私自身が感じ取ったこと、生徒に期待することを理解する (4)生徒一人一人が使命を考える	(1)(2)パワーポイント（写真と動画）

授業の詳細

1～7 眼目 マラウイの生活を体験する

マラウイの人口、平均寿命、通貨、医療事情（HIV/AIDS、マラリア）、マラウイ湖、在留邦人数、水と電気、女性のおしゃれ、子どもの家事、時間とお金の概念、難民の実態、教育、挨拶（握手、拍手）等について英語によるクイズを取り入れて紹介した。また、シマの試食（手で直接に食べる）、チテンジの試着をさせた。マラウイの高校生が書いたメッセージカード（英文）を読ませ、出会った人々の様子を語ることで、おおらかであたたかい国民性を伝えた。

〈生徒の反応〉

- ・シマは味をつけると結構いける、また食べてみたい
- ・マラリアは怖い病気だ
- ・水道が無いのは困る
- ・日本の幼稚園バスや救急車が何故あるの？
- ・公害（車）を輸出するのは罪だと思う

〈所 感〉

生徒たちは、始めマラウイに対し、貧しい国という印象しか持っていなかった。しかし、次第に肯定的な受け止めをするようになり、異文化に対して興味をもつようになった。また、英語は世界に通用することに気付いた様子である。英語の学習意欲向上を期待したい。

8 眼目 幸福の条件を考える 資料1 資料2

生徒たちは、写真や動画、実物を見ることで、異文化に触れ、自らの生活の在り方を振り返ることができた。

この過程によって、マラウイの良いところと問題点をあげて、幸福の条件を出し合うことができた。自分とは異なる意見や気づきを尊重する態度こそが大切であり、物やお金ではなく、心の豊かさが幸福につながることも伝えた。

〈生徒の反応〉

幸福の条件は何か？

- ・どんな環境でも生きていけることに喜びや楽しみを感じること
- ・自分のやっていることに自信と誇りがある
- ・大切な人がいる
- ・友だちや家族とのつながりがある
- ・みんなが笑顔である
- ・将来の夢がある



〈所 感〉

ポストイットを使用して、自由に意見や気付きを書かせた。

意見を共有することにより、多様な価値観を受け入れることができたと思われる。

〈資料教材等〉

資料 1 学習指導案・総合的な学習の時間「幸福とは何か」（展開例）

資料 2 「ナジェリ的一天」

9 眼目 医療を考える

マラウイの医療の現状を紹介し、課題をまとめた。実際に行われている取り組みとして5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）の導入やHIV/AIDSサポートグループの活動を動画等で紹介した。そして、「もし、自分がマラウイに派遣されたら医療向上のために何ができるか」をグループごとに意見を共有した。

外国人が受診できるクリニックでの様子を伝え、英文の診断書を示すことにより、医療の格差があることを理解させた。解決が困難な課題に取り組むことの意義を確認した。

〈生徒の反応〉

具体的な対策

- ・保健体育の授業を実施する
- ・新聞やポスターを作成する
- ・貧しい国があることを心にとどめておく
- ・ペットボトルのふたを収集して薬を購入する
- ・薬剤師、医師、看護師を派遣する
- ・薬の作り方を伝える

〈所 感〉

識字率の話をする、知識の伝達や教育の難しさを感じた様子であった。また、マラウイで活躍する看護師やサポートグループの活動に興味をもった。ここからヒントを得て、水、電気、薬、施設、教育のジャンルに分かれて、様々な意見を共有した。医療の問題が生活の全てとつながっていることを生徒と共に確認した。



10 眼目 言語文化の継承のために 資料 3 資料 4 資料 6

公用語である英語とチェワ語の使用状況について写真を用いて説明し、チェワ語を誇りに思う

マラウイの人々を紹介した。また、幼稚園における英語教育の様子を動画で示し、私たちが学ぶ英語とは異なることを理解させた。また、沖縄県出身の本校教員に沖縄語の解説と継承のための取り組みについての事例を紹介してもらった。更に、言語多様性の尊重及び言語消滅の影響についての英文を読ませ、言語文化の継承のためにできることを考えさせて意見の共有を行った。



〈生徒の反応〉

言語をどのように継承すればよいか

- ・ ラジオで紹介する
- ・ 劇の上演をする
- ・ その地域の人々が互いにたくさん会話をしていく
- ・ 友達と方言を話す
- ・ 地域ごとに方言を伝える行事をする
- ・ 学生ボランティアが各国の方言や伝統芸能を広める

感想

- ・ 違う地域・国の人たちと言葉の交流をする会があれば楽しいなあ
- ・ 言葉がなくなることは、すごく悲しい、さみしい
- ・ いろんな地方の方言を知りたくなった
- ・ 自分たちに何ができるのか知りたくなった
- ・ 言葉が消滅しているという事実を知って驚いた



〈所 感〉

言葉の大切さを生徒たちは実感している様子だった。身近な方言を大切に思う気持ちや「もっと知りたい」という意欲を育てたい。言葉は、それを使う人々の精神の産物であり、言葉の消滅は、異なるものの見方、捉え方を知る機会を失うことを意味する。言葉を学び、継承することの重みを生徒と共に受け止めることができた。

〈資料教材等〉

資料 3 平成17年度広島市立大学国際学部推薦入試問題 英語長文

資料 4 教科書 PRO-VISION ENGLISH COURSE II Lesson 8 “Language in Danger”

資料 6 沖縄方言（ウチナーグチ）について

11 限目 人類の共有財産である水をいかに公平に分配するか 資料 5 資料 7

マラウイにおいて水がいかに稀少な価値をもつかを、井戸や川、湖での人々の様子、ホテル室内の水使用に関するメッセージから理解させた。また、水をめぐる紛争が起こっていることを伝え、水が豊かにあると言われている日本も、生活用水の4倍以上を仮想水として輸入しており、水は不足していることに気付かせた。人類の貴重な財産である水を大切に使うことが、水を公平に分配することにつながり、そのために具体的な行動を起こすことが必要であることを確認した。



ウェビング



日本の仮想投入水総輸入量

〈生徒の反応〉

具体的な行動案

- ・ 節水トイレを設置する
- ・ 雨水を浄化して利用する
- ・ 水は限りあるものだと意識する
- ・ 自給自足を目指す
- ・ 日本だけでなく、世界の国々に訴える
- ・ 今は、どうすればよいか分からないが、将来、対策を考えることができるようになりたい
- ・ 本当に水を必要としている国のことを考えて生活する

感想

- ・ この授業で、水の大切さを考えた
- ・ 水を公平に分配できる方法があればいいのに
- ・ 戦争するために使う費用や労働力を、国を豊かにするために使えばいい

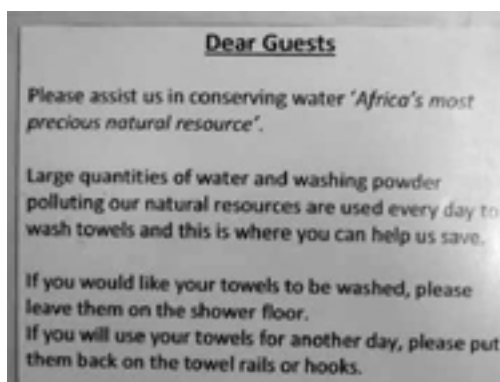
〈所 感〉

マラウイの人々は1日20リットル以下の水を使用しているのに対し、日本で暮らす人々は300リットル以上もの水を使っている。しかも、生活用水使用量140億 m^3 /年の4.5倍の640億 m^3 /年を仮想水として輸入しているという現実、生徒たちにとって衝撃的であったと思われる。地球上の水のうち、淡水はわずか0.01%である。この貴重な水資源を私たちはどのように公平に分け合っていけばよいか、生徒たちは真剣に考えたと思う。水不足、戦争、貧困、私のつながりに気づき、諸問題に対して関心を持ち続け、その解決のために何ができるかを考え、行動していくことを期待している。

〈資料教材等〉

資料5 教科書 WORLD TREK ENGLISH COURSE II Lesson4 “Virtual Water”

資料7 日本ユニセフ協会 基礎講座第38回「水危機から考える日本の食糧問題」



マラウイのホテルでみつけた注意書き

12 12 限目 あなたの使命を探し出そう

総合的な学習の時間において、1学年全員を対象に講演をおこなった。「私の社会貢献」（就業の在り方を考える）というテーマで「人は何のために働くのか」を考えるきっかけをつくることを目標に設定し、4部構成で展開した。

Part1では、マラウイの生活の概略について解説し、Part2では、マラウイに派遣されている9

名の青年海外協力隊員の活動内容や言葉を紹介した。Part3では、マラウイから帰国した私の何
が変化したのかを伝え、Part4では、生徒たちに期待することとして、「世界の現状に興味をもち、
つながりと多様な価値に気付こう」、「自分の使命を探し出そう」というメッセージを伝えた。

〈生徒の反応〉

- ・自分のなりたいたい職業を目指して勉強できる自分は恵まれている。勉強できる環境にいるのは、とても幸せなことなんだと思う。
- ・マラウイの人々を身近に感じる事ができた。他人事ではないのだ、と改めて感じた。他人のために何かをすることは難しいけれど、私はその難しいことを進んでやっていきたい。
- ・当たり前なことなんて無いんだな、とわかりました。
- ・「世界と自分がつながっていることを実感し、人の役に立てる喜びを感じる」という言葉は、間違いなく、働くということの本質の一端を捉えていると感じた。
- ・「問題を分かち合えば、半分は解決している」という言葉に感動した。
- ・世界をもっと知りたい。
- ・混沌とした現代においては、利潤のためだけでなく、他人の幸せのためにする職が必要とされているのではないかな。
- ・海外で活動する多くの日本人を見て、驚いたのと同時に勇気をもらった。



〈所 感〉

生徒たちが書いたまどめを読み、勇気、励ましをもらって胸が一杯になった。「自分のことだけを考えるのはやめようと思います」、「心の底から感動しました」、「自分が少し変わった気がする」という言葉に出会ったときは、生徒と私が共振する感覚があった。今日の講演に向けて、数ヶ月間準備を進めてきたが、その労の何倍もの喜びを生徒たちが返してくれたと思う。支え合い、分かち合うことは、互いの命の輝きをもたらすのだと確信する。青年海外協力隊員を志望する生徒も数名おり、将来が楽しみである。自らの学習に向かう姿勢や生活の在り方を反省し、今後の人生の方向性を見出した生徒たちの姿は感動的であった。

総合的な学習の時間の目標である「主体的に学ぶ力を育成する」、「自己の在り方生き方を探究する」、「知の総合化を図る」を達成するためには、異文化や異なる考え方との出会いや自己との対話を通し、新たな価値を取り入れていく過程が有効であると考える。320名の生徒たちが、自己も他者も受け入れ、力強く生き抜く将来の自分像を思い描き、学ぶ目的を見出してくれることを願っている。

全体を通しての成果と課題

生徒に気付かせ、考えさせる授業を心がけてきたが、生徒の深い思考力を育てるところには、まだ至っていない。展開の方法を工夫し、自分のこととして、様々な課題に対する解決策を自在に表現（日本語と英語で）できるよう、表現力をつける指導法を改善していきたい。

マラウイ教材は、以下に述べる二点において優れた特徴があると思う。一点目は、1つの切り口から様々な視点が広がり、喩えて言うと「多面体」である。例えば、水という切り口から、インフラ整備、保健医療、農業、水をめぐる紛争、仮想水、日本の食糧自給率等の課題が見えてくる。それぞれを更に切り込むと、もっと多くの課題が見えてくる。このように、この教材の可能性はどこまでも広がっていく。二点目は、教授者も生徒も自分の中の変化を実感できるということである。具体的には、①「明日はきっと明るい」(未来を信じる心)、②「私には困難を乗り越える力がある」(自己肯定感)、③「人の生き方や価値観を尊重できる」(他者受容)、④「私は世

界とつながっており、世界中の人々に支えられている」(つながりに気付き、私の果たすべき使命を発見する)などである。

生徒たちには、物事の本質に気付き、自分の命を他者のために活かしていくことの大切さや我々の命は人のために生きてこそ輝くものである、ということを伝えていきたい。

参考資料

【書籍】

- ・ ロバート・ゲスト著 (2008)「アフリカ苦悩する大陸」東洋経済新報社
- ・ P.W.シンガー著 (2006)「子ども兵の戦争」NHK出版
- ・ 暉峻淑子著 (1989)「豊かさとは何か」岩波新書
- ・ 「平成17年度広島市立大学国際学部推薦入試問題」
- ・ 「PRO-VISION ENGLISH COURSE II New Edition 064」桐原書店
- ・ 「WORLD TREK ENGLISH COURSE II New Edition」桐原書店
- ・ 日本ユニセフ協会「ユニセフト・NET通信」

【インターネット】

- ・ フリー百科事典『ウィキペディア』<http://ja.wikipedia.org/wiki/>